

……… 彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業計画について ………

県から素案が出されました

……… 具体化に向けた検討を、今後も継続 ………



今回示された素案を踏まえ、町議会としては、この事業のあり方について、さらに県・町・地元とともに協議を重ねていきたいと考えています。

主に左記のことに配慮しながら、住民の安心・安全に十分配慮した整備を検討しています。

- ・十分な工場用地を確保する。
- ・場内に建設する道路は、将来、折原地区と国道254号を結ぶ道路として活用できる配置を考慮する。
- ・自然の地形を利用した土地利用計画。
- ・生物ネットワークに配慮した残存緑地の配置。
- ・切土量と盛土量のバランスをとり、残土を発生させない。

「住民の安心安全に配慮した整備を」

立地企業については、再資源化施設に限らず、環境分野で先端的な技術を有する工場を広く検討することとし、廃棄物埋立地の整備については、環境負荷の低減や施設管理の安全確保が図られます。

「立地企業は広く検討」

平成20年度～21年度…計画・評価書作成・現地調査・募集・設計等を実施
平成22年度～23年度…用地造成・埋立地工事等を実施
平成24年度…埋立地、工場等の操業開始

「むこう5年間のスケジュールは」

前号の議会だよりでお知らせした、折原地区環境対策協議会から出された要望に基づき、町・町議会から事業計画における立地企業の協議についての要望書に対し、県から整備に当たっての素案が示されました。



少人数学級の実現で教育環境のさらなる充実を(写真は寄居小学校)



鉢物(和物)を町の特産品に



少人数学級、研究の進捗は
答 国や県の動向を見守ります

問 12月議会において質問した、本町の小中学校における少人数学級について、その後、研究をどの程度したのかお伺いします。

答 国や県の動向を見守りたいと思います。

問 ホンダの寄居進出が決まり、若い従業員の人たちが「寄居町の教育環境がいいので寄居に住みたい」と思うような学校教育にしておく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

答 現在の時点では、少人数学級は考えていません。

問 教員のカウンセリング研修の充実、スクールカウンセラー、さわやか相談員、学校サポーターや特別支援教育巡回指導員の配置等々ありますが、これらのことを含めて「教育特区のまち寄居」にする考えがあるのか伺います。

答 町独自の対策として、学校サポーターの増員、特別支援学級の充実、特別支援教育巡回指導員の派遣、適応指導教室の設置等により、個に応じた指導の充実を図っていますが、「教育特区のまち寄居」については、まだ検討の段階でないと認識しています。

▽その他の質問

- ・学校給食について
- ・スズメバチの駆除について



農家の活性化応援策を
答 利子の助成等を実施しています

問 原油高騰を受け、町内の野菜農家、花・植木農家が打撃を受け、「低乳価・飼料高・子牛安」の三重苦で、赤字の畜産・酪農家が急増し、やめてしまう傾向にあります。私たちの生命を培ってくださる農家の方々です。現場の声を聞き、支援策を講じるべきです。また、福寿草、梅、さんしゅゆ、ハナミズキ等、百種を数える町内の「鉢物(和物)」市場は、北は北海道、南は九州まで出荷され、全国一を誇っています。ところが、埼玉県の特産品を紹介するマップには載っていないとのことで、関係農家が大変残念がっています。県内をはじめ、全国にPRしていただき、農家の活性化を応援すべきと考えます。町の考えを伺います。

答 県の農業改良普及員が、省エネ対策の指導を行なうとともに、相談窓口を設置し、技術や融資等に関する対応をしています。

町では緊急対策を活用して支援を行なったり、燃料や飼料購入に係る農業近代化資金の借入に対する利子助成を行なっています。

観賞植物の生産については、全国に出荷され、町の農業の中核をなすものと認識していますが、「鉢物」については、生産量により、推進品目として選定されていないので、ブランド品目として選定されるよう、対象品目の細分化等について関係機関に働きかけていきたいと考えています。

▽その他の質問

- ・地球温暖化防止対策について
- ・「食の安心・安全」確保の取組について

農業振興の支援 教育特区のまち寄居

町政を問う！一般質問

質問者本人が要約して
原稿を書いています